

# 湖山西地区 地域づくり懇談会 議事録

1 日時 平成28年8月26日（金） 19:00～20:20

2 会場 湖山西地区公民館

3 出席者 地元出席者 48名

市側出席者 13名

深澤市長、河井総務部長、田中中核市推進局長、田中企画推進部長、久野地域振興局長、谷口都市整備部次長、平戸学校保健給食課長、森山危機管理課長、渡邊秘書課長

<事務局>福島協働推進課長（司会）、岡本協働推進課課長補佐、酒本協働推進課主任、北村協働推進課主事

## 4 中核市移行についての説明

（中核市推進局長）※チラシに基づき説明

## 5 第10次総合計画についての説明

（企画推進部長）※チラシに基づき説明

## 6 地域の重要課題について

### 1 防災体制について

<地域課題>

湖山西地区においては、大学生など単身者、さらに集合住宅の世帯などは、自治会に加入せず日常の所在が全く把握できない。地震など災害が起きた場合、多くの大学生など、単身者はどこに避難するのか、また鳥取大学は指定避難場所になっていないと聞くと、例えば災害時の鳥取市と鳥取大学との関係はどうなっているのか。

地元自治会、自主防災会は、これら多くの単身者などについてどう考えたらよいでしょうか。

<担当部局の所見等>

#### 【防災調整監】

本市では、市外からの転入者に対して、鳥取市総合防災マップや防災ハンドブックを配布し、災害の種類ごとに異なる近隣の避難場所や危険箇所などの防災情報の周知を行うなど、各自の意識の啓発を行っています。

ご質問にある大学生に対する災害時の避難場所や危険箇所の周知について、鳥取大学に確認したところ、入学時のオリエンテーション等で説明を行っているとのこと。また、地域で実施される防災訓練への学生の参加や大学としての参加については、協力していきたいとのことでした。自主防災会で訓練を行う際には、情報提供などの連絡を取っていただければと思います。

なお、本市では、平成27年5月に鳥取大学と「災害時における避難所等としての施設

利用に関する協定書」を締結しており、災害時には①武道館、②第1体育館、③第2体育館、④ラグビー・サッカー場、⑤陸上競技場の施設を提供いただくこととしていますのでご紹介させていただきます。

また、28年度から大学の講義として、防災に関する学生教育や地域への貢献の効果を期待して「地域防災学」講座を開設されており、学生を地域に派遣して、地域住民と一緒に防災力向上を考えていくなど、新たな取り組みも行っておられます。本市も、この講義の一コマを受け持っており、「地域の自主防災活動」について学生へ紹介しています。

このような機会を通して、今後とも、地域での防災活動に、地域住民はもとより、大学生や単身者にも加わっていただけるような活動につながるよう支援していきたいと思いますので、ご協力をお願いします。

(危機管理課長)

8月21日に、当地区において防災訓練を実施していただきました。非常に暑い日でしたが、160人を超える方に参加いただき、早朝から午前中にかけて訓練を行っていただいたということです。地域の自主防災会を中心にこのような活動をしていただき地域防災力の向上に努めていただいていることに、感謝申し上げます。

湖山西地区は鳥取大学が近く、学生を中心として単身者が多いという固有の課題があります。

当地区は、国際交流プラザ、湖山西地区公民館を始めとして、湖山西体育館、湖山西小学校、鳥取県立鳥取商業高等学校、鳥取県立鳥取湖陵高等学校など、「指定避難所」と言われる全ての災害に対応・適応できる避難所が、他地域と比較して多いです。その他、屋外において一時的に避難する「緊急指定避難場所」として、大寺屋1号公園、堀越公園を指定しています。これらの避難場所について、市では転入者に対し、「総合防災マップ」や「防災ハンドブック」を配布しています。避難場所は災害の種類ごとに異なるため、ハンドブックには、近隣の避難場所や危険箇所の位置、防災に関する情報の入手手段も記載しています。

大学生への対応について鳥取大学に確認したところ、入学時のオリエンテーション等で、これらの情報について説明されているとのこと。また、地域で実施される防災訓練等の大学生の参加については大学としても積極的に協力していきたいとのことですので、ぜひ、鳥取大学と連携あるいは大学に要請等をしていただき、一緒に防災に関する取り組みを進めていただければと思います。

鳥取市では、昨年5月、災害時における被害場所等としての施設利用に関する協定書を鳥取大学と締結しています。災害発生時には、大学構内の武道館、第1体育館、第2体育館、また、屋外施設としてラグビー、サッカー場、陸上競技場を開放していただけること



になっています。

また、鳥取大学には、「学生派遣による地域の自主防災のための人材育成教育プロジェクト」があり、これに基づき、地域と一緒に人材育成を進める取り組みをしておられます。これは、大学院生を地域等に派遣し、地域の住民の皆様とともに防災に関する意識の向上を図ることを目的とされており、学部教育での新たなプログラムの提案として、防災士養成カリキュラムによる防災教育、地域社会福祉などに関する教育を講座として持たれます。これにより、学生に対して防災意識の向上と課題発見、コミュニケーション能力の向上を目指したいとのことですし、防災教育カリキュラムによる学生の防災に関する動機づけ、防災意識の向上を狙っていききたいとのことです。また、地域社会への貢献として、教育と同様に地域住民の方々と防災意識の向上に向けて取り組んでいきたいとのことでした。このカリキュラムは今年度すでに実施されており、現在50名の学生が受講しているそうです。鳥取市の防災コーディネーターも講義の一コマを担当し、地域の自主防災活動について学生に説明をしています。

主に鳥取大学の取り組みを紹介しましたが、地域活動の中で、地域住民の方はもとより、大学生や単身者の方にも防災活動に加わっていただいで地域の防災力向上を目指して取り組まれることに対して市も支援していきたいと考えていますし、市としても取り組みに力を入れていきたいと考えています。

(地元意見)

防災マップは日本語版と英語版があります。ただ、湖山西地区は留学生や外国人が大変多いです。聞くところによると中国と韓国の方が多いようなので、中国語版と韓国語版の防災マップと、できれば防災ハンドブックも作成を検討してほしいです。

(危機管理課長)

防災マップの英語版は、平成24年に1,600部作成しました。そのうち280部を鳥取大学に配布していますし、市民課の窓口等に来られた方にも配布しています。

市民課で確認したところ、8月現在の中国人の住民登録者は約400名、韓国は300名弱、そしてフィリピン、ベトナムと続くようです。多言語に対応できるようにとのご提案だと思いますし、湖山西地区にはこのような地域の出身の方が多いとは思いますが、市全体の数として英語圏の方と比較すると、作成するのは難しいという印象です。ただ、さらにご意見等も聞いてみたいとは思っているところです。

現時点では英語のマップを配布していますが、日本在住なので日本語ができる方もおられると思いますし、漢字圏の方には何とか漢字で理解していただければと思っています。また、避難所等の避難看板や案内板には英語で表記しています。国際共通語ということで、何とか英語で対応させていただければと考えています。

(地元意見)

湖山西小学校のPTA会長をしています。

湖山西小学校が避難指定場所になっていますが、2年前に総合体育館で防災訓練が行われた時、湖山西小学校の校庭に降りる斜面の勾配があまりにも急なため、大型車が校庭に

入れないということがありました。

指定避難場所になっている以上、大型車も数台入ってくる可能性が十分あると思います。あまりにも急勾配で大型車が入れないということになると、果たして避難指定場所に向いているのかと思います。なだらかにすれば、大型車も十分入ると思います。

教育委員会にも要望として挙げていますが、なかなかよい回答になりません。これでは、防災訓練があったとしても、大型車が入れないために訓練に結びつきません。

鳥取市第10次総合計画の安全なまちづくりという観点から考えると、少しそぐわないと思います。

(深澤市長)

私も防災訓練等に参加しており、勾配が急で車両が降りにくいことは承知しています。ただ、「緊急避難場所」は、大型車両を入れるということよりは、災害発生時に周辺の皆様に「緊急的に」避難していただく場所です。そして「指定避難所」は、そこで避難していただく場所ということで、それぞれ目的が違います。

ここは広く、指定緊急避難場所としてはふさわしいと考えていますが、車両が入りづらいことは改善していくべきだと思いますので、また検討したいと思います。

(地元意見)

前向きな回答をいただきました。本当にいつ災害が発生するか分かりませんので、ぜひお願いします。この周辺の方は、まずここに避難してきます。子ども達もそう聞いています。何かをしてほしいと言っているわけではありません。なだらかにするだけです。なだらかになれば、いろいろと支援していただく方にとっても便利になると思います。

(担当課補足：教育総務課)

湖山西小学校グラウンドへの進入路は、グラウンド内の維持管理を目的として及び学校行事等の際の駐車場利用を想定して設置しているものです。そのため、以前より大型車の進入には支障を来している状況は把握しています。

現在は、本校も指定避難所として指定もされておりますので、緊急時の大型車両等の進入路の確保について、本年度中に検討を行い、実施に向けて取り組んでいきたいと思えます。

## 2 連絡道路（仮称「県道鳥取空港賀露線」）との接続について

<地域課題>

鳥取県は、平成27年度から29年度に空港と賀露港との連絡道路を整備して、両港を賑わいの場とする計画である。

この際、イオン鳥取北店との連絡道路の接続道路を検討することはできないでしょうか。空港、賀露港とイオン鳥取北店の3点を結べば相乗効果となり、大きな賑わいの場になると思います。

<担当部局の所見等>



## 【都市整備部】

(仮称) 県道鳥取空港賀露線が整備されることで、鳥取砂丘コナン空港と賀露港（マリニピア賀露）が賑わいの場としてつながり、また、県道鳥取港線を介して、イオン鳥取北店とも結びつきが強化され、相乗効果が期待できるものと考えています。

市道晩稲飛行場線は、千代水第二地区を流通業務拠点と位置付け、この地区と鳥取砂丘コナン空港を結ぶ、経済流通道路として計画し、現在、イオン鳥取北店から市道賀露幹線までの経路が整備済みとなっています。

この市道晩稲飛行場線の延伸については、今後の千代水第二地区の土地利用の伸展や高速道路ネットワークの整備状況、また、鳥取砂丘コナン空港の利用状況等を見極めていきたいと考えます。

(都市整備部次長)

鳥取砂丘コナン空港周辺は、北側にマリニピア賀露と鳥取港、そして南側にイオン鳥取北店があります。

道路は、国道9号、マリニピア賀露から鳥取港を経由してイオンの方向に向う県道鳥取港線、同じくマリニピア賀露周辺から国道9号に向う市道賀露幹線、さらにイオン鳥取北店から鳥取砂丘コナン空港方面に向かう市道晩稲飛行場線が整備されています。

この現状の中、鳥取県が、鳥取砂丘コナン空港からマリニピア賀露に至る県道鳥取空港賀露線を計画整備していこうという状況です。

この県道鳥取空港賀露線が整備されることで、鳥取砂丘コナン空港とマリニピア賀露が直接結ばれ、賑わいの場としてつながります。さらにイオン鳥取北店も、県道鳥取港線を介して空港とのルートが直接結ばれることとなり、相乗効果が期待されると考えています。

市道晩稲飛行場線は、千代水第二土地区画整理事業を行うにあたり、千代水第二地区を流通業務の拠点と位置付け、千代水第二地区と鳥取砂丘コナン空港を結ぶ流通道路として計画されたもので、現在、イオン鳥取北店から市道賀露幹線の交差点までは整備済みですが、残念ながら千代水第二地区内に未だ更地が多く流通機能が充実していないこともあり、残りの部分の延伸については整備が必要な状況に至っていないのが現状です。

空港とマリニピア賀露、そしてイオン鳥取北店の賑わい拠点のつながりという点では、仮称県道鳥取空港賀露線から県道鳥取港線、あるいは市道賀露幹線を経て市道晩稲飛行場線という路線によって効果は十分に期待できるものと考えています。また、今後の土地区画整理、市内の土地の利用の進み具合をはじめ、鳥取西道路の全線開通、そして駒馳山バイパスは福部ICまで供用していますが、その以西の山陰近畿自動車道による高速道路のネットワークの整備状況によって周辺環境も多く変わってくると思いますので、鳥取砂丘



コナン空港の利用状況等も見極めながら検討していきたいと考えています。

### 3 地区要望について

#### <地域課題>

各町内会の地区要望と学校要望の「通学路の危険箇所」は要望が重なることが多い。

要望書の提出期限、提出先が異なっているためだが、この通学路の要望についても地区要望に集約できないでしょうか。

#### <担当部局の所見等>

##### 【教育委員会、地域振興局】

通学路安全点検は、平成24年4月に発生した京都府亀岡市の事故を始め、登下校中の児童等が死傷する事故が連続して発生したことを受けて、文部科学省、国土交通省、警察庁の3省庁が連携して進められており、本市では「鳥取市通学路交通委安全プログラム」を策定し、関係者で構成される「鳥取市通学路安全対策推進協議会」で取り組んでいます。

通学路の危険性の確認や早急な安全確保を図るためには、地区要望と切り離し、重点的に対策を講じることが重要だと考えています。

学校を通して通学路危険箇所を報告いただいた場合、国、県、市、学校はもとより、警察や地域の皆様が現場で対応を検討し、緊急性や予算等を考慮し、早ければ合同安全点検実施年度に安全対策を講じています。

今後も児童生徒の通学路における交通安全の確保に努めてまいりますので、引き続きご協力をお願いします。

(学校保健給食課長)

通学路安全点検は、平成24年4月の京都府亀岡市の事故を始め、登下校中の児童等が死傷する事故が連続して発生したことを受け、文部科学省、国土交通省、警察庁の3省庁が連携して緊急対策として進めた事業です。本市も継続して実施するために、推進体制や通学路点検の考え方を定めた通学路交通安全プログラムを策定し、警察、自治会、学校、各道路管理者等で構成される「通学路安全対策推進協議会」を設置して取り組んでおり、今年で5年目になります。

通学路の危険性の確認や早急な安全確保を図るためには、どうしても地区要望と切り離して重点的に対策を講じることが重要だと考えています。

地区要望と通学路点検のスケジュールは3か月のずれがあります。通学路点検は例年6月に各学校が校区内の通学路の点検を実施した上で危険箇所を取りまとめ、教育委員会に報告していただくこととなっています。それを基に7月下旬から8月下旬にかけて関係各位で点検を行い、その結果を踏まえて安全対策を講じるという流れになっています。

湖山西小学校の校区の安全点検は、今週の水曜日に自治会長さんを始め、たくさんの方に参加していただいて実施しました。その結果を基に、10月の協議会において対策内容を決定し、安全対策を講じることとしています。緊急性や予算を考慮して、早ければ28年度中に安全対策を講じることもあります。緊急対策ですので、速やかに安全確保を図るため、今後とも児童生徒の通学路において安全の確保に努めたいと考えています。ご理解

とご協力をよろしくお願いいたします。

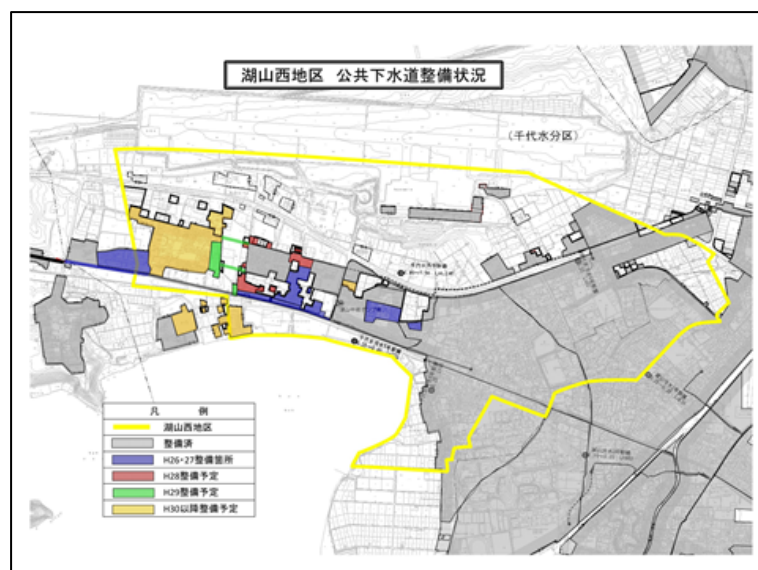
## 7 市政の課題等についての意見交換（フリートーク）

（地元意見）

2年前の地域づくり懇談会で下水道整備について質問したら、下水道整備は期限を決めるとそれまでにしなければならなくなるので期限は決められないという回答でした。もうそろそろ2年になるので、いつ供用開始できるか教えてほしいです。

（深澤市長）

赤いエリアが、今年度整備しているところです。黄緑色のエリアは来年度整備予定、黄色いエリアは少し整備が遅れています。当初の予定より少し遅れていますが、できる限り計画に基づいて整備を進めたいと思っていますので、ご理解いただきたいと思えます。



（地元意見）

期限について、はっきりいつとは言ってもらえないのですか。

（深澤市長）

本日ここで期限について断言することはできません。鳥取市だけの予算でということにはならないため、そのあたりの予算のつき具合などもあります。必要性は重々承知しており、できる限り速やかに進めたいと思っていますのでご理解ください。

（地元意見）

防災無線は屋外に整備されていますが、家の窓を閉めていると、何を放送しているのかははっきり分かりません。チャイムはよく聞こえます。しかし特に海岸部は、北風が吹くと、屋外にいても放送がはっきり聞こえません。

集会所には戸別受信機が設置されていますが、それを各戸に設置する計画はないのでしょうか。

（深澤市長）

現時点では、各戸への全戸配布は考えていません。例えば消防団長や町内会の役員などには戸別受信機を配置していますが、全戸配置となると非常に事業費もかかりますので、現時点では難しいと考えています。

家の窓を閉めている時は、何を放送しているのかよく分からないというご意見もいただ

きます。場所によっては、通常時の屋外子局の音量を上げた方がよい場合もありますので、場所をお聞きして確認したいと思います。可能な限り分かりやすく放送していますが、放送内容が聞き取れなかった場合は、放送内容を電話で確認できる方法もありますので、活用していただければと思います。

(危機管理課長)

防災行政無線で流した放送内容については、電話0857-21-6100でお聞きいただけます。

その他にも、パソコン等が使える環境にある方は鳥取市のホームページでも放送内容が確認できますし、あんしんトリピーメールにも流します。

テレビでは、日本海ケーブルネットワークの「安心・安全チャンネル」や、いなばびよんぴょんネットのテロップ放送等で情報伝達を図っています。

1つの情報伝達手段だけでは聞き逃しなどもありますので、複数の手段を持って伝えたいと考えています。

(地元意見)

先日の日本海新聞に、湖山池北岸のボート艇庫東側の艇庫を拡充して、選手の強化施設を整備していくという記事が掲載されていました。このエリアは、湖山西地区にとっての「まちづくりスポットエリア」ですので、このエリアが少しでも充実することは大変ありがたいと思いますが、その反面、湖山池の景観エリアの一つでもあります。そのため、あの周辺に近代的な建物が建設されるのも問題です。

これは県の事業だとは思いますが、計画プランの概要でもよいので、事前に地域に説明して理解と協力を得ることも大切だと思います。

これは県のことですが、市からも力添えをしてほしいです。

(深澤市長)

ボート艇庫拡充の計画があることは我々も承知しています。景観との調和も大切な視点だと思いますので、そのあたりを地元の皆様に丁寧に説明いただけるよう、いただいたご意見は早速県にも伝えたいと思います。

※10月26日、鳥取県スポーツ課が、湖山西地区会長及び副会長に事業計画について説明されました。

(地元意見)

私は、169世帯ある町内会の町内会長をしています。

市から依頼事項が町内会に下りてくるのですが、町内会加入、未加入にかかわらず下りてきます。例えば敬老会では、75歳以上の方が該当するとのことで市からリストが送られてきますが、町内会未加入者も含めたリストです。町内会は、町内会加入者を前提として動きます。それでも町内に住んでおられるのだからと、私も分かる範囲で調べて動きますが、それでも漏れはあります。このような場合の市の対応として、未加入者への周知徹



底は、どのようにしていますか。

また、これに加え、災害時要支援者支援制度の名簿作成の調査もしています。私の町内会では、独自で町内の要支援者のマップも作成していますが、町内会未加入者へ周知をしづらいところもあります。大きくて難しい問題だと思いますが、町内会未加入者への情報周知について、どのように考えていますか。

(深澤市長)

町内会に加入していただくとよいのですが、全国的にも未加入者が増加しており、鳥取市も同様の状況です。

自治会未加入者には回覧板等を回すことができませんので、市としては、例えばケーブルテレビや市報等で市政に関する情報を流すなど、いろいろな情報媒体を用いて伝えていくしかないと思います。

これから高齢化や人口減少が進行していく中で、地域コミュニティをいかに維持していくかということが、市政にとって非常に重要な課題であると考えています。できる限り自治会組織等に加入していただける状況を我々が何とかして作っていかねばならないと思っていますし、地域の皆様も、引き続き加入の働きかけをしていただくなどご理解ご協力をいただきたいと思っています。

先日開催した「参画と協働のまちづくりフォーラム」でも町内会についてパネルディスカッションを行いました。非常に難しい課題であり、引き続き取り組んでいく必要があると考えています。

(担当課補足：協働推進課)

敬老会や災害時要支援者支援制度は、見守りが必要な方をサービスの対象としており、これら事業の実施には、身近に暮らされている方の協力や相互扶助がなければ行うことが困難な地域福祉サービスです。

市では、任意団体である自治会への加入未加入の把握ができないことから、自治会員の皆様には各町内会を通して声をかけていただくとともに、未加入の方については、民生委員の皆さんに声掛けを行っていただいています。

高齢化や過疎化、世帯の小規模化が進むなど社会形態が変化し、地域福祉に関する市民ニーズも多様化する中で、住み慣れた地域で安心して暮らすためには、共に支えあう仕組みを築き実践していくことが重要であることにご理解いただき、引き続き協働のまちづくりにご協力をお願いします。

(地元意見)

町内会未加入者については、私自身は、情報が欲しい場合は地区公民館に行って相談されるなど、地区公民館を基本に考えています。

町内会へ加入するには、町内会費という問題もあったり、ごみ収集の問題があったり、学生であるなど社会に対する働きかけが異なる職種、階層があたりで、対応をいろいろ考えなければならず苦労しています。そんな状況の中で、市から依頼事項が下りてきます。何でも町内会に流せば伝わるのではないかという発想は、できるだけ抑えてほしいと思い

ます。私は町内会長をしています、休日が本当につぶれます。現役世代なので出張もあり、毎日働いているようなので、そのあたりの交通整理をしてほしいです。

何でも町内会に下ろせばよいという発想はしてはいないと思いますが、例えば、敬老会の案内でも市が直接郵送してほしいという思いもあります。私の町内会には75歳以上の方が59人いますが、これを1件1件当てるのは本当に大変で、この夏は本当にへたばりしました。

交通整理をしながら、併せて未加入者への情報提供について検討をお願いします。

(深澤市長)

大変暑い中、いろいろな配布物等をお配りいただき、まずもって心から感謝申し上げます。

町内会の皆様には日頃から大変お世話になっており、全てを町内会の皆さんにお願いしようとは考えていませんが、問題なのは町内会未加入者に、どうやって市政の情報等を伝えていくかだと思います。なるべく町内会の皆様に負担をおかけしないような工夫をしていかなければならないと思っています。

市役所の新庁舎にはケーブルテレビやコミュニティFMのサテライトが入る計画になっていますので、今まで以上に活用ができるのではないかと思います。ICT技術を活用したいろいろな方法もあると思いますので、これからは複数の情報伝達手段を上手に活用してお伝えしていくことも考えていかなければならないと思います。

交通整理も含めて、今後検討したいと思います。

(担当課補足：協働推進課)

自治会の皆様には、地域への情報提供や地域情報の収集等にご協力いただいております、感謝しています。

町内会に行政から依頼される文書等が多いとの声は他地域からも聞いているところです。

今後、事業に係る経費や効果も併せ、自治連合会とともに、整理・検討していきたいと考えます。

(地元意見)

道路を走る自動車がすごく多くなりました。自転車に乗る人もたくさんいますが、自転車道路が狭くて通れない所がたくさんあります。人が一人歩く程度の幅しかない所がたくさんあります。何とかしてほしいです。

(都市整備部次長)

現在、県道の改良もしていますが、それとは別の所でしょうか。

詳しい場所が分からないのですが、自動車の大型化や交通量の増加などにより、道路機能が少し不十分になってきているという現象もあります。状況によっては、道路の構成を少し変えて歩道を拡幅するなどの対策もしてきていますが、いずれにしても現状を確認し、どのような対策ができるかご相談しながらということになると思います。

(地元意見)

もとの湖山街道です。

(都市整備部次長)

大学前から美萩野の方に向かう道路のことでしょうか。

大学前から美萩野に向かう大きな道がありますが、この路線は県道ですので、県が管理しています。大寺屋から鳥取大学前にかけての整備も順次されています。

現在も整備を進めておられますが、それ以降の計画を把握していませんので、本日のご意見は県に伝えたいと思います。

(地元意見)

私は、大学前町内会に住んでいます。

鳥取大学前から湖山池のみやこ苑の方に抜ける道幅4.5mの道路を、1日中ダンプが通ります。年度変わりは特に多いです。道幅4.5mは狭いので、ダンプが通る時はお互いがすれ違いを待って通ります。

ダンプは鳥取道の瓦礫を積んでおり、鳥取医療センターの所の大きな山になっている辺りにその瓦礫を捨て、帰りに砂を持って帰ってきます。

竜ヶ崎を散策できるよう市に庵を作ってもらったのですが、その道も土砂のせいで水溜まりができたりして、非常に景観も悪いです。私の町内も、毎日のことなので大変危険です。

業者によっては、踏切の所に交通整理の人が3人ほどいて、県道から入るよう誘導している業者もありますが、そうでない業者は鳥取大学前から私達の町内会の中を走るその狭い道路を通ります。この状態が5年も10年も続いており、堪忍袋の緒がそろそろ切れそうです。

これはいつまで続くのでしょうか。市か県かどこに言っていけばよいのか途方に暮れていますし、せっかくの湖山池もこの周辺が一番景観が悪いです。

竜ヶ崎の庵がせっかくできたのに陰気な感じもしますし、土砂が山になっているので、このあたりを一考してほしいです。

(深澤市長)

我々も状況を十分に把握しきれていないところがありますので、まず竜ヶ崎の状況を確認したいと思いますが、交通を規制することはなかなかできないと思います。注意喚起して、安全に通行していただくようお願いするしかありません。

山陰道は、仮称吉岡温泉インターから青谷間については平成29年度中に供用開始の予定とのことですので、工事も終盤に差しかかってくると思います。残りの鳥取西インターから仮称吉岡温泉ICまでも、そう遠くない時期に供用開始になると思いますので、実質この山陰道の道路整備工事もそう遠くない時期に終わると考えています。

そのあたりをご理解いただければと思いますが、まずは状況を確認したいと思います。

(担当課補足：都市企画課)

湖山池北岸周辺における大型車両の通行について、鳥取西道路整備事業者である国交省鳥取河川国道事務所へ確認しました。

#### 【国交省回答】

鳥取西道路の土砂等につきましては、平成26年7月より鳥取市三津字大浜の残土仮置場へ運搬しているところです。

走行経路として、鳥取大学前を通行しないようにしており、国道9号から県道伏野覚寺線を通り、蓮池踏切を横断して三津地区に運搬することとしており、踏切には交通整理人を配置する等の対策により地元の方々へ配慮し工事を進めています。

鳥取西道路事業の進捗を図る上で、もうしばらく当該箇所への土砂運搬により、3m程度の高さまで残土仮置きを実施しており、引き続き、安全第一で工事を進めてまいりますので、ご理解の程、よろしくお願いします。

本市では、鳥取西道路整備における大型車両の通行にあたり、市道及び広域農道等に路面損傷が見受けられるため、国交省に対し大型車両の法定速度遵守の徹底、損傷箇所の報告、ドライバーへの指導等を要請しているところです。湖山池北岸周辺の大型車両の通行に対しても同様に要請しているところです。

## 8 市長あいさつ

お礼のご挨拶をさせていただきます。

先ほど道路の関係等についていろいろなご意見、ご質問等をいただきました。また、下水道整備、地域コミュニティ、町内会の加入、防災など、いずれも大変重要な課題ばかりです。すぐに対応させていただけない部分もあると思いますが、しっかり受け止めさせていただき、できることから全庁的にしっかり取り組ませていただきたいと思います。

地域づくり懇談会は2年に一度の開催ですので、なかなかご意見を十分にいただけなかったかと思いますが、また違った形でご意見、ご質問等をお寄せいただければありがたいと思います。

限られた時間ではありますが、熱心に議論いただきましたことに心から感謝申し上げます、お礼のご挨拶に代えさせていただきます。本日は本当にありがとうございました。